

一般演題 高気圧酸素治療の臨床② OP6-3 血液透析患者に対し高圧酸素療法, レオカーナ を併用し足潰瘍治療を行った一例

○得能香菜^{1,2)} 栗原征宏²⁾ 橘 翔平³⁾ 四宮敏彦³⁾
山本直人²⁾

- | |
|---------------------------|
| 1) 大宮中央総合病院形成外科 |
| 2) 自治医科大学附属さいたま医療センター形成外科 |
| 3) 大宮中央総合病院腎臓内科 |

【はじめに】

重症下肢虚血による難治性潰瘍の治療において血行再建は必須であるが、困難な症例や効果が乏しい症例においては補助療法が推奨される。今回、我々は透析患者において血液浄化療法（以下、レオカーナ）、高圧酸素療法（以下、HBO療法）を行った際の工夫を若干の考察を加えて報告する。

【症例】

58歳男性、左第2趾の色調不良を主訴に前医受診した。重症下肢虚血の診断となり、血管内治療での血行再建術が行われた。その後、足趾切断術を行うも断端壊死をみとめ追加切断（第2-5中足骨切断）が実施されたが、断端部の血流および肉芽増生不良であったため血行再建術不応答としてレオカーナ、HBO療法目的で当院紹介となった。

入院後より、非透析日に週3回のHBO療法、1週間に2回透析時にレオカーナを行い、足潰瘍治療を行った。自宅退院に向け、リハビリテーションでの歩行練習も並行して行った。当初は疲労によりリハビリテーションが出来ないこともあったが、患者と治療計画を検討し、HBO療法30回終了時には創部は概ね治癒しており、自力歩行で退院に至った。退院後4週で創部は全て上皮化し、退院後4ヶ月経過しても潰瘍形成なく経過している。

【考察】

血液透析患者において重症下肢虚血の疑いがある患者は約16%とされている。重症下肢虚血による難治性潰瘍の治療には血行再建術が必須であるとされるが、透析患者は全身状態が悪い症例が多く、約半数が血行再建適応外であったとする報告も見られる。そういった場合には補助療法として高圧酸素療法や血液浄化療法、薬物療法が推奨されている。下肢潰瘍治療の目的としては歩行機能の維持であり、潰瘍治療に加えてリハビリテーションも必要である。透析患者ではさらに週3回の血液透析を行わねばならず、患者の疲労が強くなり、治療計画に難渋していた。涉猟し得た限り、血液透析、高圧酸素療法、レオカーナ、リハビリテーションを並行して行った例がなく当院での工夫を報告した。工夫して治療を行うことで効率的に潰瘍の治療が進み、早期退院、歩行機能の維持が可能と考える。